

高信頼度 0.98 μ m 励起光源用半導体レーザー

1998年(平成10)、光海底中継器用励起光源として、0.98 μ m 帯半導体レーザーを開発した。これまで、TPC-5 CNなどの光増幅海底ケーブルシステムでは励起光源として1.48 μ m 帯半導体レーザーを用いていたが、この励起光源に波長が0.98 μ m 帯の半導体レーザーを用いれば雑音が低く抑えられるため、100Gbpsクラスの太平洋横断海底ケーブル実現に向けて、その実用化が強く求められていた。その後、開発成果を三菱化学株式会社に技術移転し、共同でその高信頼度化ならびに商品化を進めた。開発されたこの高信頼度0.98 μ m 励起光源は、2000年運用開始のJapan-U.S.ケーブルとPC-1ケーブル、TAT-14ケーブルなどに世界で初めて採用された。

出典：KDD 社史